

めあて 書き手の意図を考えながら、複数の資料を比較して読もう。

一次は、どちらもある年の同じ日にけいさいされた新聞の一部です。二つの新聞記事を読み比べて、あとの問題に答えましょう。

【A社の記事】

見出し

今年も、多摩川では3月下旬から「江戸前アユ」が川を上りはじめた。今年は、1983年の調査開始以来、初めて1000万匹をこえた。東京都で冬をこし、春に川をさかのぼるアユを「江戸前アユ」とよぶ。

若アユたちは、先を争うように、しぶきを上げて水面の上にはね上がる。太陽の光に、緑のうろこがきらきらときらめく。若い力のすばらしさを感じさせてくれる。初夏の風がにつかわしい光景だ。

一時期川がよごれ、多摩川のアユは人々の前からすげえ消した。が、自然がもどり、ふたたびアユが多摩川を上るようになった。今では多摩川の風物詩になったともいえる。

多摩川では、すでに一部でアユつりが解禁されている。今年もまた、待ちに待ったアユのシーズンがやってくる。

【B社の記事】

見出し

多摩川では、年によって増減はあるが、東京湾から川をさかのぼってくる天然アユが増加している。今年は、83年に調査を始めてから、初めて1000万匹をこえたことが確認された。

かつては、川の源に足を入れるとアユがぶつかるとおり、「アユの川」とよぶ人もいたという。ところが高度経済成長期、多摩川にすむほとんどの生き物がすげえ消した。しかし地元住民や行政の努力で、多摩川は以前のすがたにもどりつつある。アユは、その象徴的存在だ。

ここ数年、野草の減少、干潟での生き物とり、野鳥観察など、泳いでさままなもよおしが開かれている。授業で多摩川の自然に親しむ小学校もある。もちろん、土手を散歩する人々のすがたも多い。

ゆたかな自然のめぐみをあたえてくれる多摩川。多摩川は、ついによみがえった。

1 次の見出し(記事の中心を短い言葉で表したもの)は、A、Bどちらの新聞社の記事のものでしょうか。記号で書きましょう。

見出し よみがえった「アユの川」

2 左かしさんは、両社の新聞記事に共通して使われている情報をまとめています。に入る共通点を、記事の言葉を使って三十文字以内で書きましょう。

【共通点】

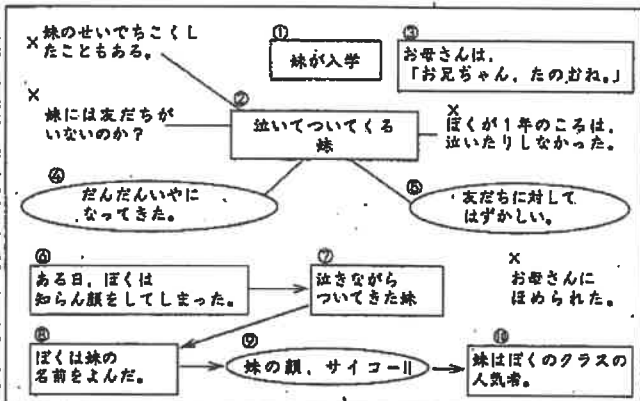
調査を始めてから、初めて川を上るアユが1000万匹をこえた。  
一時期川がよごれ、アユがすげえ消した。


※次のページにも問題があります。

めあて メモを生かして、伝えたい事柄を分かりやすく表現する構成を考えよう。

二 藤原さんは、家族との心に残った出来事を先生や友だちに伝えるために、メモをもとに文章を書いています。次のメモや文章を読み、あとの問題に答えましょう。

【藤原さんのメモ】



「藤原さんが書いた文章」(前半は、省略しています)

妹よ、泣かないで

しかし何日か、ぼくは、いつも泣いてついてくる妹がいやになりました。友だちには「またついてくるで。」と言われ、「また一人で教室に行け」と心の中で思いました。そして、泣いている妹に知らん顔をしてしまいました。

でも、妹は泣きながらついてきました。隣をよぎって、しばらくしてふり向き、ぼくを見ました。ぼくは急に自分がいやなお兄ちゃんに変わったように思っていました。泣きながら教室の方へ歩いていく妹が、少しかわいそうに「あずさ。」とよびました。ぼくの声にうれしそうにふり向いた妹の顔は最高でした。

今では元気に、ぼくが学校に行くと、妹は「あずさ。」とぼくの頬をたたいて、休み時間には「あずさ。」とぼくの教室に来て、「何かあったのかな。」と思っていると、「お兄ちゃん。」という声に、ほっとします。

妹は、今ではぼくのクラスの人気者です。

1 「藤原さんが書いた文章」の①～⑩の部分には、【藤原さんのメモ】の①から⑩までのどのメモを使って書いていますか。当てはまる番号を二つ書きましょう。

藤原さん

2 「藤原さんのメモ」の「X」は、藤原さんが文章に取り上げなかった内容です。また、□で囲まれた部分(①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩)は、藤原さんが伝えたいと思ったことでは、○で囲まれた部分(⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳)は、藤原さんのどのようなことですか。書き出しの言葉に続けて十字以内で書きましょう。なお、書き出しの言葉は、字教にふくみます。

【原さんのアドバイス】

3 「藤原さんが書いた文章」を添った原さんは、~~~~~線の部分の書き方についてアドバイスをしようと考えました。□に当てはまる言葉を書きましょう。


直した方がいいと思うよ。